

豪雨災害から考える南越前町の防災

都築 大輔

■活動内容

①8月に発生した豪雨災害のボランティアに参加

今庄に住んでいた知り合いの元へボランティアスタッフとして泥だしをしに行ったボランティア参加前にどのような持ち物が必要か、そもそも町はどのような状態なのかがわからず不安だった。

その不安を取り除くことができる方法がないのかを模索。

②災害現場の状況とボランティアセンターについての調査

被害を受けた、今庄、赤荻地域に取材を行った

災害は発生当時の様子や支援がされるまでの流れを聞くことができた。

ボランティアセンターを立ち上げた社会福祉協議会に取材を行った。

南越前町だけではなく、当時のBCにもかかわっていた坂井市や鯖江市の社協にも取材をし、南越前町の災害の課題点やよかった点を伺った。

③ビジネスプランコンテストに災害時に防災情報の発信を行えるアプリを提出

最終選考会に選ばれ発表を行った。

プラン作成のために、福井システムズ株式会社への訪問とサイボウズ社のキントーンの説明会への参加をした。

プラコンの結果は奨励賞だった。

④むすび塾が主催する防災情報交換会への参加

防災について取り組む若者の情報交換会へ参加し、災害ボランティアの心構えや情報発信について伝えた。

■町との関わり

来訪場所

今庄宿、河野観光案内所、南越前町社会福祉協議会、旅籠塾、等

旅籠塾では、北村様、西村様に豪雨災害発生当時の様子とその後の行動について取材した。

河野観光案内所では赤荻地区の区長の小角様から赤荻地区でのボランティアが遅れてしまった理由について深く尋ねた。

社会福祉協議会では米野様からボランティアセンター立ち上げ当時の様子や災害発生時の取り組みについて伺った。

■情報発信・共有

①ビジネスプランコンテストで災害発生時の情報発信をスムーズに行うプランの提案

実際に参加した目線から考案したアプリ「ボランティアパスポート」はこれからの日本には必要だと評価をいただいた。

②むすび塾での防災の取り組みについての情報交換

同世代の人と、防災に関する情報交換を行った。

私からは南越前町の豪雨災害から感じたボランティア情報の重要性と発信についてお話した。

■成果（変化）

今回の活動ではアポをとっての取材が多かった。インタビュー形式で行うために事前に調べて聞きたいことを聞き出せる取材を心掛けた。うまくいかないこともあったが、聞きたいことを聞き出すことができた。

活動の中で災害時のボランティアに焦点を当てていたが、減災、防災についても興味が出てきた。山間の地域だからこそ起こり得る災害についての知識をつけ、南越前町で次このような災害が起こった際にどのように対応するのがよいのかを発信したい。

また、防災アプリを配信することで多くの人を持つ防災情報を共有しあう場を作りたい。

■活動に関する写真等



ボランティアに参加したときの様子



今庄で取材



社会福祉協議会で取材